



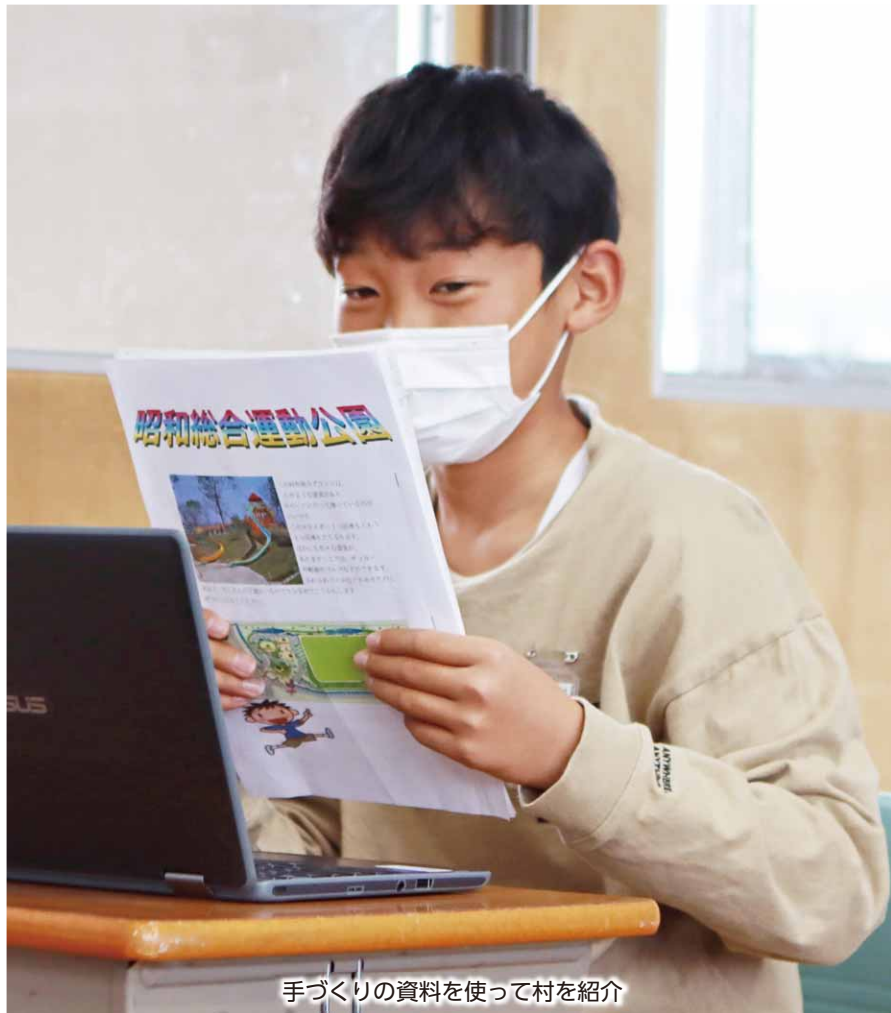
画面越しに勝田小6年生と対面



黒毛和種のブランド牛「昭和牛」を紹介



画面で相手を見ながら説明

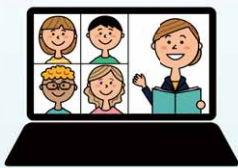


手づくりの資料を使って村を紹介

南小



横浜市
かちだ
勝田小



オンラインで友好交流

Close up

準備を重ねて村を紹介

南小学校(阿部詩子校長)では、6年生(関口由香利教諭)の27人がタブレット端末を使って、横浜市立勝田小学校の6年生とリモート接続し、オンラインで交流をしています。この交流による授業は、村が横浜市と友好交流協定を結んでいることから実現したものです。

12月8日は、南小学校の子どもたちが横浜・勝田小学校に対して、昭和村の魅力や特徴などを紹介しました。あらかじめ、両校が数人ずつのグループに分かれて対面し、それぞれ事前に準備を重ねて作った資料をもとに一人ずつ交代で説明しました。

子どもたちが紹介したのは、昭和村が「やさしい王国」である理由や、村内の季節ごとのイベント・フォトスポットの紹介、観光地としての道の駅「あぐりーむ昭和」の紹介など。村を知らない横浜市の子どもたちにも理解してもらえよう、テーマにまつわる「なぜ」や「どのよう」にといった事柄まで一人ひとりが深く掘り下げて調べ、ていねいに説明していました。

今後は、勝田小学校の子どもたちが南小学校に対して、横浜市を紹介する授業が行われる予定です。



剣道の防具を着けて部活動を紹介



マンガなど身近なもので日本を紹介



少し名残惜しくもある別れ際



画面越しに笑顔で交流

米国・オレゴン州 イーグルポイント高校



昭和中

南小学校と昭和中学校でリモート接続によるオンライン交流授業が行われました。南小学校では6年生が横浜市・勝田小学校に村の魅力を紹介。また、昭和中学校では今年度2回目となる米国・イーグルポイント市の高校生たちとの英語交流が実現しました。

二度目の国際交流が実現

昭和中学校(登坂一彦校長)では12月22日、村と海外交流事業を行っている米国オレゴン州イーグルポイント市内の高校生と、昨年8月に引き続き今年度2回目となるオンライン交流会を開催しました。

今回は、前回参加した生徒や部活動の大会前で参加できなかった3年生6人に加え、2年生5人の11人が出席。リモート接続により画面越しに対面しました。

オンライン交流が始まると、生徒たちは身近にあるものや部活動の服装などを使って日本の文化や特徴を紹介。すぐに打ち解けて会話を弾ませていました。

交流会に参加した小林里駆君(3年)は「緊張したけどとても楽しかったです。こちらが不自然な英語を話しても、相手がきちんと聞き取ってくれました。今後はSNSなどを活用してやり取りしてみたい」と手応えを感じていました。また、高橋幸さん(2年)は「部活動の剣道を紹介しましたが、相手はまったく知らないようでどう説明するかが難しかったです。英語は難しかったが交流は楽しかったので、また交流会があればぜひ参加してみたい」と話していました。